

大地震への対応について～学校と家庭の共通理解のために～

【H28、3月つくし特別支援学校】

想定1：関東地方やその周辺で大地震が発生し、松戸市が震度5弱以上を記録。電話での連絡が可能で、道路の通行や交通機関の利用が可能な状態。

想定2：東日本大震災クラスもしくはそれに近い大地震が関東地方もしくはその周辺で発生。電話による通話が困難、公の交通機関が運行停止、道路状況が通行困難もしくは危険な状態。

状況	想定1	想定2
授業中	○児童生徒を安全な場所（体育館）に避難させます。 ○被害状況や下校に関する情報を学校からの一斉メールと災害用伝言ダイヤルで発信します。状況によっては各家庭へ直接電話連絡します。 ○下校については状況により①通常下校、②職員引率による下校、③引き渡しのどれかとなります。	○児童生徒を安全な場所（体育館）に避難させます。 ○被害状況や下校に関する情報を学校からの一斉メールと災害用伝言ダイヤルで発信します。 ○3食分の食糧備蓄で対応します。 ○下校については学校での引き渡しで対応します。各家庭からのお迎えをお願いします。
校外学習中	○宿泊中や施設見学中の場合は施設側が避難対応します。 ○交通機関で移動中の場合は交通機関側が対応します。 ○スクールバスで移動中の場合は安全確認したのちに校外学習を継続するか途中で帰校するかを判断をします。 ○いずれの場合も状況把握ができた段階で学校からの一斉メールと災害用伝言ダイヤルで情報発信します。必要に応じて各家庭に連絡します。 ○災害後の対応としては①校外学習の継続、②校外学習を切り上げての帰校、③見学先で避難待機等のケースが考えられます。	○宿泊中や施設見学中の場合は施設側が避難対応します。 ○交通機関で移動中の場合は交通機関側が対応します。 ○スクールバスで移動中の場合は安全な場所に駐車した後、近くの避難場所に移動します。 ○いずれの場合も状況把握ができた段階で学校からの一斉メールと災害用伝言ダイヤルで情報発信します。
登下校中	○スクールバスは安全な場所に一時駐車し、学校と連絡を取りながら安全について情報収集します。 ○スクールバスの状況とその後の運行についてはコースごとに学校からの一斉メールで情報発信します。必要に応じて各家庭に電話連絡します。 ○スクールバスの災害後の対応としては①通常の運行の継続、②コース途中での帰校の2つのケースが考えられます。（途中で帰校した場合には学校での引き渡しとなります） ○自力通学生は各自の判断で避難場所へ避難します。 ○自力通学生に対し学校は、避難情報を得るように努力します。 ○教職員が通学路を巡視し、生徒の発見と安全確保に努めます。 ○保護者が災害状況を判断し、生徒を自宅に誘導してください。	○スクールバスの運行を停止します。 ○安全な場所にバスを駐車させ、ひとまずバス内で待機し救援を待ちます。状況によっては最も近い避難場所（学校等）へ移動し、保護者のお迎えを待ちます。 ○バスの状況把握ができた段階で学校からの一斉メールと災害用伝言ダイヤルで情報発信します。 ○移動中の場合は鉄道会社やバス会社が対応します。 ○自力通学生は各自の判断で避難場所へ避難します。 ○自力通学生に対し学校は、避難情報を得るように努力します。 ○避難場所の確認ができたなら急行して生徒を保護するようにします。 ○教職員が通学路を巡視し、生徒の発見と安全確保に努めます。 ○保護者が災害状況を判断し、生徒を自宅に誘導してください。